

木耐協 技術通信

2003年
7月号

技術的なご質問・ご相談などは・・・

- 組合員専用ホームページ「安斎先生への質問コーナー」よりお気軽にお問い合わせ下さい
 - 直接お電話でのご相談の場合は、木耐協事務局まで。
- 毎週金曜日 9:00～18:00 TEL:048-224-8316

監修：日本木造住宅耐震補強事業者協同組合 技術顧問 安斎正弘 TEL：03-5549-2115 FAX：03-5549-2125



すごいぞ！もうマジックを点灯させた星野阪神！ 優勝を決めても手を抜くな！ 天文学的勝率を達成せよ。今年は熱い夏になる予感！
さてそろそろ本筋の'学習モード'に入りたいところですが、もう少し寄り道して今回は壁補強に伴う既存筋交いの処理について触れておきたい。
'既存筋交いは外さずに施工出来ます！！'

*

外壁補強で、柱の外寄りに付いている筋交い。或いは内壁補強で補強する壁側に付いている筋交い。これらはいずれも内付けホールダウン(くるピタ)の設置に作業上支障がある。この場合お客様に説明、ご了解の上で既存筋交いの除去(切断)をしているようですが、この方法は時に、というより多くの場合、お客様の不安を生みやすい。この不安が昂じると、「不信」に直結する。また稀には除去しようとする筋交いに常時、圧縮力や引張力が働いている特殊なケースも考えられます。その様な状態の筋交いを切断したらどうなる？(想像してみてください！)

お客様にとっては、「現況よりも強い壁に変わる。」、「面材壁は左右どちらからの水平力にも抵抗でき、現在の片筋かいは突っ張りとしての片方向にしか役に立たない。」、「既存壁より補強壁の方が優先順位が高く、引抜き防止金物は必須条件。」と、理屈で説明されても矢張り納得には至らないのも事実のようです。ではどうすれば良いのか？

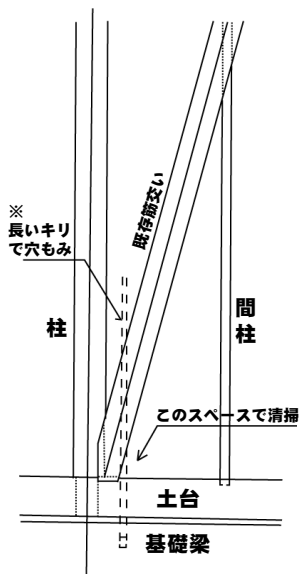
問題は筋かい裏に取付ける「くるピタ」アンカーの穴あけ・設置をどうするか、です。筋かいを切断する理由は通常のドリルでは穴あけが出来ないからでしょう。だから'通常の錐ではなく、長いキリを使用。'し、筋かいの上の裏側から穴もみをするのです。こうすれば、既存の筋かいを切断せずに「くるピタ」は設置できるはずです。

今後も木耐協の標準施工方法として、当たり前のこととして実施していただきたいのです。お客様に要らぬご心配をかけないよう、全社員に徹底してください。

以下に施工上のポイントを解説しておきます。(横棧と既存筋交いと納まりにも注意して見て下さい。)

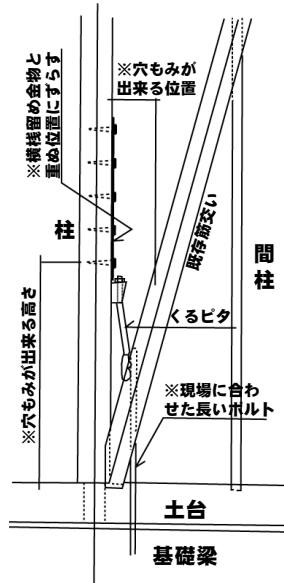
工程(1) : 土台・基礎梁の穴あけ

- ◆木工用・コンクリート用の長いキリを使用
- ◆圧搾空気による清掃は通常通り



工程(2) : くるピタ・金物設置

- ◆筋かいをかわして「くるピタ」を設置(横棧留め金物とくるピタが重らぬ様に)
- ◆コーチボルト下穴(施工できる高さに！)



工程(3) : 横棧設置

- ◆筋かいと横棧を相欠きとする(筋かいは最小限の切欠きとする)
- ◆筋かいと横棧をN60で2本打ち(釘位置にはキリで下もみする)

